

第2回 仙台市部活動地域移行検討協議会議事録

- 1 日 時 令和6年11月28日(木)
午後3時00分開会
午後5時00分閉会
- 2 場 所 仙台市役所上杉分庁舎 12階 教育局第1会議室
- 3 出席委員 石川裕美委員、岩城利宏委員、大内聡委員、岡崎勘造委員、川股直哉委員、木村ひろみ委員、桑原康平委員、鈴木浩志委員、高島秀一委員、寺田潤委員、洞口乃委員、馬目佳代子委員
- 4 事務局職員 渋谷総務企画部長、加藤健康教育課長、太田健康教育課主幹兼主任指導主事、大堀健康教育課保健体育係長、門脇健康教育課指導主事、新妻教育指導課長、小田教育指導課主幹兼教育課程係長、西教育指導課主任指導主事、伊藤教職員課管理主事、佐藤教職員課主査、加藤生涯学習課主幹、間宮生涯学習課主査、吉田スポーツ振興課長、土屋スポーツ振興課企画係長、佐久間文化振興課長、平石文化振興課主幹兼文化振興係長

5 配付資料

資料1 第2回仙台市部活動地域移行検討協議会

6 会議の次第

- 1 開会
- 2 議事 「休日の部活動地域移行に係る移行パターンと地域資源について」
- 3 閉会

7 議事の概要

「休日の部活動地域移行に係る移行パターンと地域資源について」

- | | |
|------|---|
| 事務局 | 本委員会設置要綱の定めにより、委員長が議長となることとなっており、ここからは岡崎委員長をお願いする。 |
| 委員長 | 議事に先立ち、今回の委員会における議事録の署名委員は岩城委員をお願いしてよろしいか。
(異議なし)
本日の議事は、休日の部活動地域移行にかかる移行パターンと地域資源について。
はじめに事務局の方から説明願いたい。 |
| 事務局 | 一資料1に基づき説明一
本日の協議会では、土日の地域移行を進めていくことについて、そして、提示した地域移行の3つのパターンについて、資料に示したもの以外に考えられる課題などについて、ご意見を頂戴したい。 |
| 委員長 | ただいまの説明について、質問があればお願いしたい。 |
| 大内委員 | 地域移行については、広報だったり情報提供、生徒・保護者、地域の人に対しての広報活動は大事だと思っていて、ホームページも一つの手段として考えられると想定した。新潟市では、ホームページに動画とかを載せていくとの話があったが、誰が中心となって管理運営するのか、わかれば教えていただきたい。 |
| 事務局 | 管理は、新潟市で行っている。市に申請が上がって来るので、それを踏まえて、掲載している。 |
| 大内委員 | 具体的に言うと教育委員会の、そういうセクションの人がやるということか。 |
| 事務局 | 推進室があり、そこで対応している。 |
| 川股委員 | スポーツ振興事業団では、各団体の事務局を行っていることから、補足の説明をさせていただく。
まずスポーツ少年団、私たちのところで事務局を行っており255団体ある。今回このうち、中学生がすでに参加している団体がどれくらいあるかを調べてみた。全体でおよそ2割。例えば、野球、バスケット、バレーボールといったところは、概ね2割くらい参加している。サッカーになるとほとんどない状況。空手、柔道、バドミントンはすべて中学生も参加している状況。現状では小学校 |

が主体となった活動になっており、中学生を受け入れているところは少ない状況にある。それから、種目が野球、サッカー、バスケ、バレーといったあたりに集中し、すべてはカバーしきれてないところがある。また、各団の数や、団員は少子化の流れの中で、減少傾向にあり、また指導者も、若干、高齢化が進んでいるところで、指導者確保というところは課題になっている。

スポーツ少年団が受け皿になる可能性は十分あると思うが、受け皿になるとすると、実質、今学校との連携している団は少ないので、スポーツ少年団側からすると、新たにその学校の部活動と連携した活動を考えてくということになるので、そういう意味では、新しいフォローが必要になると感じる。

総合型地域スポーツクラブについてだが、私どもの方でヒアリングや巡回などをしており、13団体あるうち中学生が参加している団体は半数ある。多種目をやっているということで、広がりがあるが、ただこのスポーツクラブは、大体20年ぐらい前にこの制度が国の方で導入され、その後、県市ともに増やそうということでいろいろ活動してきたが、一気に増えない状況である。ようやく今、これぐらいになっているので、十分受け皿になりうると思うが、これを拡大していくのは難しい。今ある団体については、受け皿になりうると思っている。

スポーツ協会は私たちのところで事務局を担っており、スポーツ協会は、主に競技団体の方々の集まり。この中に、スポーツ少年団の指導者の方や、学校の先生方も入っている。スポーツ協会の活動としては、指導者の研修会を行ったり、仙台市民総合体育大会という大会を年1回開催したりしているが、チームを持っているわけではないので、地域に密着して何かやるというところではない。そういう意味では、どちらかというと指導者を派遣していくときの、受け皿というのが主要なところになってくると思う。

最後に、仙台スポーツ振興事業団も受け皿となり得ると示していただいたが、私たちのところでは、各体育館などで、様々なスポーツ教室等を行っている。今までの部活動の代わりになるようなもののレベルではなくて、親しんでいただくといった感じのものを開催している。例えば、青葉体育館だと武道館もあるので、柔道や武道の講習会をやっているが、どちらかというと神戸市さんのような、楽しむような活動の一環としてプログラムを活用できるケースは十分あるものと思っている。

木村委員 そもそも土日の部活動を地域移行に持っていく話だが、必ず地域クラブに入らなければならないのか。

事務局 絶対に入らなければいけないものではない。今やっている子供たちが、土日活動できるような場所を作ってあげたいというところ。土日は活動をやらない子もいる。曜日によって違う種目を選んで、第1日曜日はサッカー、第2日曜日は武道、第3日曜日はダンス等、もしくは文科系の活動を選んでやることも可能になると捉えてもらえればと思う。

木村委員 あくまでも土日は自由な選択ができて、いろんな経験してもらいたいという考えからの地域移行になるのか。

事務局 子供が少なくなってきたり、現状としては中学校の合同部活動が増えて、単独の学校だけではチームができなくなってきたり。そういうことを踏まえて、子供たちの活動の機会をもっと増やす。合同部活動であれば、単独校でできない種目が合わさることによって、練習ができたり、チームが組めたりすることも想定している。あとは、教員の働き方改革もある。本来、土日は教員が指導するものではないのではないかという声もあり、総合的に鑑みて地域移行を進めていくことになっている。

鈴木委員 受け皿として、保護者会とか、スポ少とか、プラスこういう受け皿も考えられということで、示していただいた。確かにその通りだと思うが、切り口として、これらの人たちは具体的に何を生業としているのか、何でご飯食べているのかが私は欲しいと思う。

なぜなら、それで食べているなら、活動の一環として学校に派遣する形をとれると思う。

私自身もスポ少の主催者でもあり感じるところだが、あくまで余暇でやっている。余暇活動でやっている中で、土曜日にやって日曜日はやっていない中で、日曜日もやってください、地域の中学

校に行ってくださいよと言われた場合に、私は、土日休みの仕事だが、休日は休みたい。

自分の余暇として過ごしたいところを、ある程度削ることになると、その対価というものを準備して、支払いするような仕組み、生業に対してマイナスの影響を及ぼさないような仕組みがまずベースとして、あるべきではないか。

私自身はガツガツやるようなスタイルでは無い。体力増進と礼儀作法が学べればいいというスタイルで、教えている。多くの保護者がどうかかわからないが、勝ちにこだわりたい保護者もいる。

学校の中で部活動をやっていると、お金はそんなにかからない。そこに対して、仕組みを変えらるとなると、出費は増えると思う。仕組みは用意しました。あとは、保護者さんお金をよろしくねというところに対して、保護者側がついてこられるのかということが、課題として大きいような気がする。

その中で、どうすればいいのかなと考えた場合に、一番これが良いと思ったのはスポーツ団体、文化芸術団体に加入している人材を、学校に派遣するパターン。私の中では、もうこれぐらいしかないのではと思っている。ただし、人材は少ないことが容易に想像され、それに対しての対価や仕組みを用意するとしたら、一律には難しい気がしており、勝負にこだわるパターンと、運動を楽しむスタイルの2パターンがある。Aパターンだったら月々2,000円、Bパターンだったら月々1,000円くらいの金額だと、負担感がなくできそうな気がする。それには行政側からの支出をベースとした仕組みがないと、難しいのではないかなというのが、感想、意見である。

寺田委員 分かっている範囲で教えていただきたい。新潟市と熊本市に、それぞれコーディネーターという立場の方の配置があり、新潟はこれから、熊本はもうすぐ配置するとなっている。

コーディネーターという立場の方々は、どのような人を想定し、実際にどのようにコーディネートをしていくのか、学校の職員なのか、それとも行政としてやってくのか。

事務局 コーディネーターは仙台市でもポイントになると思っている。新潟市も熊本市もこれから設置していく予定で進めている。イメージは、退職校長等を配置して、各学校を回って、地域移行の説明や地域クラブを立ち上げるときの支援に入れていきたいとの話であった。事務局だけでは難しいところは、コーディネーターが学校を回って、地域を見て、課題が出てくれば教育委員会や関係団体と連携をしていくといく考えを持っているようであった。

寺田委員 各学校1人配置のイメージなのか、まとまって行政区ごとに何人かいるのか。現場の学校として、どういう位置付けで、どういう方がいるのかイメージつかない。

事務局 話を聞いてきた中では、区ごとに1名配置をしていきたいという意向があった。ただ、それがどうなるかはわからないようではあったが、地域移行を進めていく上では、区に1名は必要だという認識を持っているようである。

桑原委員 今日三つのパターンについて示ししていただいて、方向性を今後定めていくというところだが、三つ挙げたところを見ると、新潟は休日の部活動を行わないという方針、神戸は休日の活動を行うが地域主体でやっていく、熊本はこれまで通り学校中心で今後も休日の活動をやっていくという代表的な例ということでコミットを示されたのか。

もう一つ細かいところで言うと、指導者のところで教員の兼職兼業の話がいっぱい出てきたと思う。先ほど委員から出た生業、お金のところの話になるが、兼職兼業した場合に無制限にお金をもらえるわけではないと思う。上限があると思うが、金額としては幾らまでなのか、時間なのか教えていただきたい。

事務局 三つの事例については、いろいろなやり方があることを、委員の皆様にご提示をした上で、仙台市としての方向性を検討してもらうためにお示ししたもの。

教職員は公務員のため兼職兼業はできないのが基本。しかし、届けを出し、内容を教育委員会の中で審査をして、認めた場合には、許可を出すという形で進めている。本職の業務に支障がないのが基本となるため、勤務時間内はできない。

報酬は、常識的な範囲内であるというところであり、高額ではないというところが基本になっている。金額はお示しできないが、そういったところを総合的に審査して、判断することになっている。

	部活動の指導はスポーツ活動の指導のため、子供たちの教育に資するということでは、基本的には兼職兼業が認められるという方向で、進めていけるのではないかと考えている。
委員長	熊本は、移行しないと言いつつも、移行に近い形を取っているとの理解で良いか。
事務局	部活動は学校の管理下内で行うところが他都市と違うところ。
	土日は、希望する教員や外部指導者を充て、希望しない教員は部活を指導しなくても良い。けがをしたときの保険は学校の管理下内のため、学校でのスポーツ振興センターの保険が適用になる。地域移行になると、土日は学校管理下外になるため、団体で保険に入り、その適用を受けるところが、変わってくる部分となる。
岩城委員	今回の資料を見させていただいて、地域で子供だけではなく、大人も含めてスポーツとか、文化活動をしている団体の数は、種目でばらつきがあるが、結構あるという印象。
	そうしたときに、鈴木委員からお話あった費用負担の話とか、団体の考えも当然あり、そういういったところを整理しなければいけないと思っている。
	川股委員から紹介いただいた例えばスポーツ少年団の話も、2割ほどが中学生参加と言っていたが、2割となっている現状は何が理由なのか。例えば、中学生も一緒に参加、あと場合によっては大人も参加したときに、新潟市であったように、いろんな世代の人と触れ合って、子供時代にいろいろ学ぶことは、既存の部活動から地域移行した場合の、一つのメリットとして考えられると思う。例えばスポ少において、中学生が今現在入っていない理由や要因があるのであれば教えていただきたい。
川股委員	細かく現状を把握しているわけではないが、部活動がしっかり行われている中で、中学生の大きな目標は、中総体で活躍することはあるだろう。スポーツ少年団だと、数が少ないこともあるが仙台市だと交流大会のようなものをやっている。県レベルだと大会というふうにできるのだがスポ少で野球をやるのは、小学校まで、中学校は部活の流れがあるのかなと思う。
	スポ少側の体制としても、小学生と中学生では体格が違うので、現に両方やっている野球の例だと、小学校と中学校は別に活動していた。レベルの差が出てくるので、同じグラウンドで一緒にできればいいのかもしれないが、小中ってなるとなかなかそうもいかない。やはり指導体制が、倍必要になるところもあるのかなと感じている。
	先ほど鈴木委員の意見の関連で、私ども思っているのは、少年団の方は、あくまでボランティアでやっていて、自営の方は土日以外も活動されていて、平日の勤めがあるサラリーマンの方は土日に参加しているところ。そこを受け皿になっていただくとすると、そのためのスポーツ少年団の方々にとっての動機づけになるようなものももしかすると必要になってくるのではないかな。
	それは補助金とか、対価ということもあると思う。例えば、一つの方向性としては、中総体など、大会が今後段々緩和されて、スポーツ少年団とかも参加して統一されていくようなことになると、動機づけにはなるかもしれない。メリットとしてはスポーツ少年団も、中高でやれば一貫した指導もできるようになる。活動場所も、学校を優先で活用できれば、場所探しの苦労もなくなる。そういった、団体がやってみたいなと思えるような仕組みがあれば、意欲的なところも中にはいるのではないかなと思う。課題は大きいですが、そういう方向性はあるのではないかなと思っている。
事務局	保護者会がどれぐらい学校の中で設置され、どんな活動をしているのか、ご紹介いただきたい。
	保護者会の数までは把握はしていない。各学校にもよるが、ある程度数はあるものと認識している。練習試合で移動がある場合には、子供の送迎をさせていただいている。
	活動としては、部活動によって異なるが、一般的に保護者の代表者がいて、顧問との窓口となり連絡を取り合っている。また、大会に参加する際、参加費の徴収等を行っている。最近はLINE等でもやりとりをしながら、保護者間で連絡を取り合うこともある。ただし、全部の部活動に保護者会があるわけではないため、今後、事務局として把握をしていきたいと思っている。
委員長	準備ができたところから、土日、休日の移行をしていくという方針を出して、それを達成するための案を今回出させていただいた。どれかにフィックスするわけではなくて、準備ができた、そのできたというのは、それぞれの地域によってできる状況が違うと思うので、ここにお示しいただいた

メニューを、地域が選択することができるという理解でよいか。それとも、ある程度限定的に、例えばこの例で示していただいた、パターン 1、2、3 のどれかに決めていくという形なのか。

事務局 三つのパターンを示したが、今、話があったように、地域によっても実情が違うので、新たなパターンが生まれてくる場合もある。すぐに地域移行できる地域や地区もあるかもしれないし、時間をかけて地域クラブを作っていく場合も考えられるため、そういう意味では、段階を踏んで、準備が整ったところから進めていくというのが現実的ではないかと考えている。

委員長 どれか一つに決めるわけではなくて、地域がどういった方向で移行していくかという方法を決めていけるという理解でよいか。また、保護者が負担だと思われるところであれば、何か違った方法で考えていく必要があるだろうし、逆に保護者が熱心な方がいれば、保護者中心で地方公共団体に登録し、みんなで費用を出し合ってやっていくということもできると思う。それぞれの地域の部活動に選択権がある、ということでしょうか。

事務局 ある程度パターンを示すことによって、学校や地域ではうちの学校、地域はこういうパターンに合うのではと考えられるものとして提案させていただいた。地域、種目によって変わってくると思うので、時間のかかるところとすぐできるところはバラバラになると思う。

委員長 ハンドボール協会はどうか。

桑原委員 私は専門競技ハンドボールで、県の協会や、中央競技団体の方にも関わっているが、仙台市だとチーム数が少ない。また、2027 年の全中から種目が外れる。

競技団体の関係者として、すごく痛手。競技の普及とか振興に痛手だなと思う反面、そうなるのと、部活動からクラブチームへの移行が根本的に進み始める。これまでも、ハンドボールのクラブチームを作って、普及したいと思ったとき、先ほどの少年団になぜ中学生が 2 割なのかに繋がるのだが、正直、出る大会が少ない。クラブチームを作ったとしても、中体連の大会に出られない。

クラブチームは他にないので、対戦相手もない。クラブチームの大会も、全国的にはハンドボールの場合は部活動が中心である。出る大会がないとなると、そういう意味では、学校を超えたクラブチームが、進んでいかない。これが全中で廃止になったら、クラブチームはどんどん増えていっていると思う。ピンチはチャンスで、競技団体の関係者としては、これはチャンス。中学校を超えて、やりたい選手がいたりする。

進学先の中学校にはないとなったら、今まではそこで終わりだったが、別にどこから通ってもらってもいいからという意味では、少し広がりがある。

委員長 つまり、この地域移行になって、宮城県ハンドボール協会ではウェルカムで、地域移行に対して、前向きにやっていけるという理解か。

桑原委員 私が、こういう話をなぜするかというと、県でやっているタレント発掘事業とか 10 年ぐらい関わって来て、小学校 5・6 年生で良い子がいて、ハンドボールやりたいと言っても、その子が、例えば、石巻に住んでいますとか、仙台でもハンドボール部がない所に住んでいると、残念だねで終わっていた。

県の協会の会議で、クラブチームを市内に一つでも二つでも立ち上げてもらえないかと話をしてもあまり反応はなかったが、やっぱり変わると違う。今、年度内には聖和学園さんがベースとなるチームが一つできる。一つできると、追って幾つかできると思う。

委員長 種目によっては、その協会に話を持って行くと、移行が進んでいくという可能性もあるのかなという意味では、一つのパターンではなくて、いろんな選択肢が地域によってあることを確認させていただいた。

洞口委員 中体連では地域移行の話が出た時点で、ずっといろいろ考えてきて、クラブチームが中体連の大会に出ることを受け入れて、2 年が経つ。

国が地域移行をはじめるときには、予算をつけていたが、実際、蓋を開けてみたら、何分の 1 しか予算がつかなかった。地域移行をやると言っていたのが、やれるところからと段々とトーンダウンしているのが現状である。

部活は土日やめるとか、平日も移行しているところや、熊本のように、部活動はなくさないでや

っていくところがあり、全国的にも統一した地域移行というものはなく、仙台もみんなで考えているところだと思う。

何かやるときに大事なものは、ヒト、モノ、カネと言うが、外部指導者もいない。学校の施設を使えるようにはいろいろ工夫はできるが、そういう状況。そして、先ほど生業の話が出たけれども、休みを削ってまでそれをやるって言ったときの、その人に対する対価のお金がどこから出るのかがまだ見えないので、どこに向かっていけばいいのか考えている。

総合型地域スポーツクラブを立ち上げるように国から来たときには、お金が出た。そのお金を使ってどんどん立ち上げて、しかし、限りあるお金なので3年ぐらいはお金出たが、あとは受益者負担で継続していく流れの中で、結構立ち上がったところから減ってきた。また、今、何かまた立ち上がってきている話は先ほどあったが、その時、総合型地域スポーツクラブに子供たちを行かせて部活動を楽しもうという働き方改革のような流れで作ったのだが、なかなかうまくいかなかったというのがあり、また、同じように、地域移行は働き方改革という部分で始まったのだが、みんな悩んでいる。

全中からなくなる種目が発表されたときに、東北中体連としては、全国がなくなったから、東北大会でその種目をやめるかは、まだ決まっていない。東北大会があるなら、宮城県大会をどうするか、宮城県は東北大会や全中がなくても宮城県は、例えばハンドボールはやっていくとか、そういう議論もこれからやっていかないと、来年度、再来年度に入ってくる中学1年生の子供たちが、路頭に迷わないように、というような議論も中体連ではしている。

大会運営をしている側と校長という立場の両方で考えたときに、地域移行はとっても良いことだと思う。そこで、例えば私が中学校のバレー部の顧問をしている。でも、自分の住んでいる地域の中学校で、地域クラブのバレーの指導をしたいと考えたときに、私が地域のクラブ活動でやっているバレーで、中総体に出たいとなると、部活動の顧問でもあり、地域クラブの指導者でもあるので、それではうまくいかなくなってくるのではと考える。

兼職兼業は良いが、自分の地域に戻ってやるとなると問題も出てくる。土日は兼職兼業で教えるのは良いことだと思うが、そこには、やりたい先生と、土日はできない先生が出てくるときに、何でA先生がやってくれているのに、B先生はやらないのかとなってくるのも見える。

だから、今まで部活動があって当たり前だったところを根本的に、もう変えていかないと地域移行は難しいと思う。

もう一つ考えられることは、A中学校でバレー部に所属しており、土日は何か自分の好きな活動に行く。月曜から金曜までは、A中のバレー部で活動して、大会にもA中のバレー部として出ている。それが今、地域クラブが中総体にも出られるので、A中学校のバレー部に所属しているが、違うところの地域スポーツクラブにも入って、スポーツクラブで大会に出る子供たちもいる。どちらで大会に出るかは子供たちに選択してもらっている。

今、中総体は学校の先生方の各部の顧問の先生が集まって、大会を運営している。地域移行が進んで学校に部活がなくなれば、そこに来る先生方も少なくなる。その中で大会運営はやっていけるのかという心配が一つある。地域クラブの役員の方が大会運営に携わっていただくというの、もちろんある。

もう一つは、どんどん地域クラブが増えて、先生たちが何で地域クラブの大会を我々がやらなければいけないんだっていうふうに、なりかねないこと。

中学校体育連盟というの、中学校ではないので中学生大会。今は、中学校体育連盟は学校の先生方で構成されているが、中体連が無くなっていくのかなと思いつつも、本当にどうしたらいいのかっていうところで考えているところ。

寺田委員

今、話題になった中総体、それから合唱の大会や吹奏楽の大会は、基本的に学校単位で参加している大会がほとんどであり、その運営は教員がやっているが、視察してきた地域では、今後どのようにとらえているのか。

もう一つ気になるのは、責任の所在について。事故であつたり、生徒指導上のトラブルであつた

り、そういったものの責任の所在、学校が最後までそこは責任を持つべきなのか。そこは現場の教員は不安に思っているところだと思う。

あとは、それぞれの学校と行政との関わりについて。アスリートやアーティストの育成であるとか、文化体育振興について。市の方針があり、担当する部署もあると思うが、その考え方と学校部活動の考え方の調整を、どれぐらいされているものなのかが非常に興味、関心がある。そういうところで、いろんなものが見えてくるものがあると思いで、わかる範囲で教えていただきたい。

事務局

視察先の都市では、中体連のあり方も検討していると話をしていた。運営面では、今まで教員が担っていたものが、教員ではなくなる可能性が高まっている。そうなったときの運営の仕方というのはどうなるのか。中体連の大会は縮小していくのではというような話もしていた。責任の所在は、土日の地域移行は学校の管理下外になるので、起きた事故やけがは運営団体側に責任の所在があるということになるので、土日は別な保険に入ってもらい、そちらで対応していただく。もちろん、兼職兼業の先生たちも、そこの団体の責任者としての対応が求められる。平日に関しては、部活動として残っていくのであれば、そこは学校管理下内で、学校の責任で行われることになる。

いろいろ課題が上がってきているので、先進の取り組みをしている都市によっては、平日も一緒に移行していく方がハードルがなくなると考えており、徐々に平日も一緒に移行していこうという流れが出てきている。そうすれば、平日に部活動がないので、責任の所在が学校か地域クラブかという部分がわかりやすくなる。教員の適正な勤務時間の中で仕事をしていくことにつがるのではないかと考えが出てきているところである。

学校と行政の関わりでは、地域移行の調整はどこの都市もやっぱりすごく困っているようだ。教育委員会に推進室を新たに設けて、学校間との調整や、地域クラブを立ち上げようとしている団体への支援というような形で、人を配置しているところもある。現状の人数では対応が難しいと、新たにやることなので、新た人員を配置して、丁寧に学校と連携をしていくということが大事ではないかということで、推進室を配置していると。そこにコーディネーターを置いて、区ごとに対応して移行を進めている都市が多いようである。

寺田委員

現状、中体連の競技の部会長、その競技別の責任者は、学校長がやっている。そこら辺の住み分けを、今後どう考えていったらいいのか。管理監督者の大会会長が、校長から離れていくことになるといういろいろな課題があるだろうと思う。

高島委員

先ほど、鈴木委員が言われたように、現実的にどういった選択肢があるのかと考えたとき、やはり地域クラブという形で新しい受け皿を作ることや、スポーツ少年団の既存の団体が受け皿になる等、いろんなパターンがあると思う。

ハードルは高いと思うが、指導できる人材を発掘して、育てて、それを組織化して、実際に現場にマッチングするという、コーディネーター的な人材を育てるとかそういうプラットフォームを作るといのが、現実的にできることなのかなと思う。前回申し上げた通り、仙台市の持っている資源を見渡したときに、経済同友会とか経済界の方々が、地域貢献しようという動きも出てきているので、そういう裾野を広げていくっていうのが一つある。

それからプロスポーツ、やはり町に球団があるということ。ここ数日、地元新聞でも、プロ球団何周年という節目の特集が含まれていたが、プロ球団でやっていた方々の活用も考えられる。

それから学生が多い町ということで、仙台市域外を含めて運動活動に従事している学生がいるので、そういった方を補助的に活用できないか等の観点で、指導人材をいかに発掘していくか、組織化していくか、そういう視点が必要なのかなと。

それから、議論が運動部中心だが、文化部系の話も当然出てくる。運動と違うのは、土日活動するのは、おそらく吹奏楽とか合唱に絞られていくと思う。それ以外の美術とか書道とかは、どちらかというと教室、市民センターの活動とある程度融和性があるのかなと思う。

そういう意味で、運動部と文化系、それから、それぞれの運動部でもそれぞれの種目によって、競技人口も全く違うので、それぞれの実情に合わせたやり方を地域ごとに見出だしていくという視点が大事なかなと考えている。

- 川股委員 休日の部活動の地域移行のイメージの持ち方だが、平日は今まで通り部活動、休日は地域クラブ活動になったときの捉え方は、部活動で活動している人たちが、土日は地域クラブで活動することなのか、休日はそこにはとらわれず、様々地域クラブで自由に活動を行うことなのかを確認したい。
- 事務局 どこで活動するかは、子供が選べる。部活動の延長で地域クラブをやるのも構わないし、土日は違う団体で活動することもできるというような形になると思う。
- 川股委員 そうすると、子供が地域クラブの土日の活動をメインと捉えればそちらの大会に出るし、部活動メインと捉えれば部活動で目指して行って、そこはそういう各自に任せるということになるのか。
- 事務局 強制はないので、逆に平日は活動しても土日はやらない。地域クラブに入らなければ、土日は休むという選択肢も出てくると思う。
- 石川委員 この部活動の地域移行が、土日の指導者の確保の問題で、そこをクリアできれば何とかなるのかなと思っていたが、簡単な問題ではないことがよくわかった。例えば、コーディネーターの件で考えていたが、退職校長がコーディネーターをやることに関して、学校を知る者としては確かにそういう立場の人という選択肢もあるものと思った。
- だが、桑原委員の話を聞いていて、例えばハンドボール協会で、そのハンドボールの繋がりの中で、その種目がわからなくては、人も知らないし仕組みもわからないというところが当然出てくると思うので、掘れば掘るほど、そのそれぞれの種目に精通する方々に参加していただかないと、大元は変えていけないのかなと思った。
- 学校の部活動に所属していて、地域クラブ等にも所属するようになったときに、試合に出場するときにはどちらを選択して出るとか、その所属を一体どういうふうに考えていったらいいのか。その子供の自由だとは言われているが、子供が少なくなっていく中で、当然、頭数に当てにしている部分もあると思う。昔みたいに学校の名誉のためとかではなくなると思う。子供たちが本当に力を発揮できる場を選択していくようなことになると思うので、その所属の問題というのも大きいと思った。
- それから、後ろにあるのが中体連だとか、その他の団体のその枠組みの問題というところまで実は入っていくということで、洞口委員の悩みなどはまさにその辺なのかなと思う。この地域移行が入口になって、やっぱりどうしても手をつけていかななくてはならないような課題をもう一度洗い出さなくてはならないのかなと感じた。
- 責任の所在など、ここはどうなのかというところは後から決まっていくことだと思ったので、まずその大前提にある部分の整理がもうちょっと必要ではないかなと思う。みんなが見えるような形にしていかないと、理解していただくのは難しいのかなと感じた。
- 鈴木委員 既存の仕組みに当てはめて何とかやりたいと考えるのは当然の流れだと思うが、その既存の仕組みに当てはめようという考え方から脱して、ゲームチェンジが必要だと思う。
- そう考えたときに、資料の「考えられる本市の受け皿となり得る資源」の中で、民間企業の記載がある。一つ例を挙げれば、私の勤め先では、野球部とかヨット部とかハンドボール部がある。そういったところのスポーツ人材を活用する。ただ活用したいと言っても会社は動かない。例えば、法人税を減税するとか、お金を出すのではなく、割安にするというようなものを打ち出して、企業の中で芽生えてくるものをうまく活用する。そういった、新しい掘り出し方にも目を向ける必要があるのではないかなと思った。
- あとは、そもそも論で、国は小児肥満を抑制したい等、ニュースを通して聞こえてくるが、スポーツをさせたいはず。でも、それに対して国はお金出さないのは何なのかと、正直思った。国が言っている割には、何でそこに対してちゃんとした投資をしないのか、甚だ疑問を感じる。
- 将来を担う子供たちの10年後20年後、30年後を考えたときに、この子たちがより健康な体であってこそ、国がたくましく、豊かになるのではないかな。
- 桑原委員 部活動地域移行もいろいろな要素があって、いろんな切り口があって、それぞれの切り口から入っていくと、ものすごい課題がいっぱい出てきてなかなか話がまとまらないのではと思う。
- 今まで学校部活動が成り立ってきたのは間違いなく、現場の先生方の献身、それに尽きると思う。

今回の話が出た1丁目1番地は、少子化で今のままの部活動の形はもう成り立たなくなることと、教員の働き方改革。これはもう待ったなしであると思う。

熊本市の例で、今後も学校に関わり続けるって話が出てきているが、これをやると教員のなり手不足になるのではないかと。教員採用試験の受験者数が減って、2次募集でも集まらない状況が起きている。それは、子供たちにとって良いことではない。正直、大学でも売り手市場で、どんどん企業とか就職斡旋の業者とか、学生を紹介してくれないかとなっている。その状況で、教員の労働環境や魅力を高めることは一番基盤となるところ。労働環境条件を高めないと、子供達にひいては影響が出るというような私は考え方を持っており、熊本市のような考え方はどうなのか。

最後に示されている地域の意向を考えないといけないが、学校の部活動からは完全に離すという、関わるのが前提ではなくて、学校の先生方が関わらないことを前提でいろいろ考えていく。先ほどあったように、全中からハンドホールは無くすことが決まると、それに向けて変わっていくところがあると思う。学校部活動から休日については切り離すと。

あとは、地域クラブの活動に、今後、行政がどれだけ関わっていくのか。要は、土日なのでやりたい人がやる活動、任意の活動に行政がどれだけ労力をかけていく必要があるのか。その関わり方とか、その程度については、考えていかなければいけないと思う。私は、学校部活動から切り離すということと行政の関わり方については、今後議論が必要と現時点では考えている。

岩城委員

今回2回目という議論、会議の中で、1回目は確かにいろんな課題があって、地域移行を考えるにあたって、勝手に絵空事を書いても駄目なので、端的にやっていけそうな主体があるのか、という点に絞った形での資料作りだったと思う。それに付随して、他都市の状況を聞いて議論したと思っており、そういったものを今日は共通認識をしてもらうことと、地域移行を進めるにあたっての検討事項は、パイプもできたので、次回以降、改めて政令指定都市に聞くことも良いのではと思って聞いていた。

やはり、進めていく上での前提として、教育委員会として思っているのは、決して先生方が楽をするためにやるわけではないということ。今でも、どこの学校でも先生方が頑張っていると我々認識しているが、より生徒に向き合い、児童生徒の学びや成長を支援するための働き方改革であって、部活動の地域移行だということは、機会を捉えて教育委員会が前面に立って説明していく必要があると思っている。方向性を出すときには、効果的な保護者への周知とか、地域への説明を考えていきたい。

事務局

地域移行に当たっては、各自治体もいろいろと進めてはいるところだが、視察して聞いたところによると、うまく進んでいないというのが実情である。

皆様からいただいたご意見の中でも、課題はいっぱいあるなというところ。我々も、ヒト、モノ、カネの問題は認識しており、その中でも、今回は受け皿というところに焦点を当てて議論いただければなというところで、提案をさせていただいた。

また、課題として、我々が考えていなかった、例えば大会運営についての所属の問題も出てきたところなので、今後運営するに当たって、そういった課題も踏まえながら資料を作成して、意見をいただければと思っている。

8 その他

委員長

以上で、本日の委員会を終了とさせていただきます。

事務局

次回の開催は3月中旬を予定している。配付した用紙に都合の良い日程を記入の上、後日提出願いたい。また、本日以降も気付いた点や意見、質問、必要な資料があれば、お知らせ願いたい。

以上

令和 7 年 / 月 24 日

署名委員 仙台市部活動地域移行検討協議会委員長 岡崎 勲造

仙台市部活動地域移行検討協議会委員 岩城 利宏